

## 西区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
西区中学校合同演奏会		西区自治連合協議会「にぎわい・文化のまちづくり」部、堺市西区			
事業目的	事業内容	活動指標	H30	R1～R2	R3
<p>西区内市立中学校吹奏楽部及び音楽部部員のそれぞれが演奏技術の向上に努め、音楽を通じて感性の豊かな大人に成長するよう支援する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に伴い様々な活動を抑制される生活の中、同じ空間で音楽にふれることで、区民の活力に繋げるとともに、連帯感の醸成を図る。</p>	<p>西区内市立中学校吹奏楽部及び音楽部が、日頃の練習の成果を発表する機会として、演奏会を開催する。</p> <p>演奏会当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、来場者の把握やマスクの着用、検温の実施等を行うほか、規模を縮小した開催とする。</p>	演奏会参加校数	6校	新型コロナウイルス感染拡大により中止	4校
		観客数	約1,200名		約240名
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
○	次世代を担う子ども達を音楽を通じて育むとともに、学校同士の交流を深め、演奏技術の向上にもつながる事業である。また地域に中学校の部活動を広報し、地域のつながりを強めることにも寄与している。	○	必要な打合せや選曲、練習、当日の段取りなどは出演中学校が主体となっており、行政としては、会場確保や新型コロナウイルス対策など、各中学校と役割を分担し協働で、事業を進めている。	△	新型コロナウイルス感染症の影響で、区内6中学校のうち4校の出演になったほか、学校代表者による合同演奏も開催を行わないなど、従来と比較すると、規模を縮小した。
④効率性		○ 事業の運営について、行政の関与は予算、要員ともに必要最小限に抑え、学校間の調整や打合せは、中学校の協力を得ながら役割を分担し、効率よく準備を進めた。			
⑤自立発展性		総合評価			
△	学校間の準備や調整などは、顧問の教員同士で行うなど、出演者が自立して取り組んでいる部分もあるが、会場の確保や費用面において行政の協力も必要となる。	○	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、西区内の全市立中学校の出演は困難であったほか、緊急事態宣言の解除後から準備を行うことになったため、従来の内容での実施とはならなかったが、様々な催しの中により、発表機会を失った中学生にとっては、意義のあるイベントとなった。</p> <p>今後のアフターコロナを見据え、各中学校と連携しながら、さらなる充実を図っていきたい。</p>		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	<p>中学校関係者が学校間の調整や当日の舞台進行などに関わっており、教育現場と行政の協働事業として、地域住民からも評価が高いことから、今後も継続実施が望まれている。</p> <p>今回は新型コロナウイルス対策として、従来とは異なる運営となったが、本来は区内の中学校が音楽を通じて、生徒同士が交流し、切磋琢磨する場となっているほか、近年では、大阪府吹奏楽連盟が毎夏開催するコンクールにおいて、複数の中学校が地区代表となるなど優秀な成績を収めていることから、本事業がその一助として寄与していると考えられる。</p>				